



伝統と創造の両立を

新潟 京都、地元の老舗が討論

京都府などが全国で開催している「都市創造」市中央区で開かれた。「新潟

潟と京都をつなぐ伝統と創造」をテーマに、それぞの土地で歴史を重ねる老舗の後継者らが意見を交わした。

府や経済団体などでつくる「京都アーランド推進連絡協議会」の主催。京都の魅力を発信するとともに、街の魅力を開催地と互いに高め合うことを目的に全国で開いていくことによる。ことし3月の新潟市と京都市の「観光・文化交流宣言」締結を記念し、本県では初めて開いた。

フォーラムには本県から新潟三業協同組合(新潟市東区の無職、本

都市の魅力向上を目指して開かれたフォーラム)12日、新潟市中央区

潟市)の行形和滋理事長、尾畠酒造(佐渡市)の尾畠留美子専務、京都側から老舗酒造会社社長と華道の家元が出席。約150人の参加者を前に、伝

統を守ることの大切さや新たな挑戦の必要性などについて語った。

行形理事長は「日本人にとって日本料理屋は外国人に行くより縁遠いかもしれない」として、芸妓とのお座敷遊びや、親子で会席料理を楽しむイベントを企画していることを紹介。日本酒の海外展開に力を入れている尾畠専務は「伝統は変えてはいけないのでなく、新しいものを取り入れて続していくものだと思う」と述べた。

新潟市東区の無職、本間忠久さん(70)は「伝統を継承し、後世につないでいく努力は大変なものだと分かった」と話して